

# 旅客設備の衛生評価

The method for evaluation of hygiene of railway facilities

## 概要

快適な旅客設備を提供する上で、設備の衛生状態に対する利用者の意識や衛生実態を把握することは重要です。そこで、利用者が触れる駅設備についての意識調査と、駅設備表面に存在する微生物（細菌）の実態調査を実施しました。その結果、利用者意識と細菌の実態には、乖離があることが分かりました。

## 特徴

- 意識調査の結果、設備に「触りたくない」と回答する理由は、「汚い、菌がいそう等」が過半数以上を占めていることが分かりました。
- 旅客設備表面に存在する細菌を、培養法により定量的に、遺伝子解析により定性的に評価し、他環境と比べ特段特異な環境ではないことが分かりました。
- このように、利用者意識と細菌の実態には、乖離があることが分かりました。

## 用途

- 利用者意識と実態から衛生維持の方向性を考察することが可能です。
- 今回の衛生評価結果は、利用者の駅設備利用促進の方策検討資料、及び駅設備の衛生管理計画の資料として活用できます。

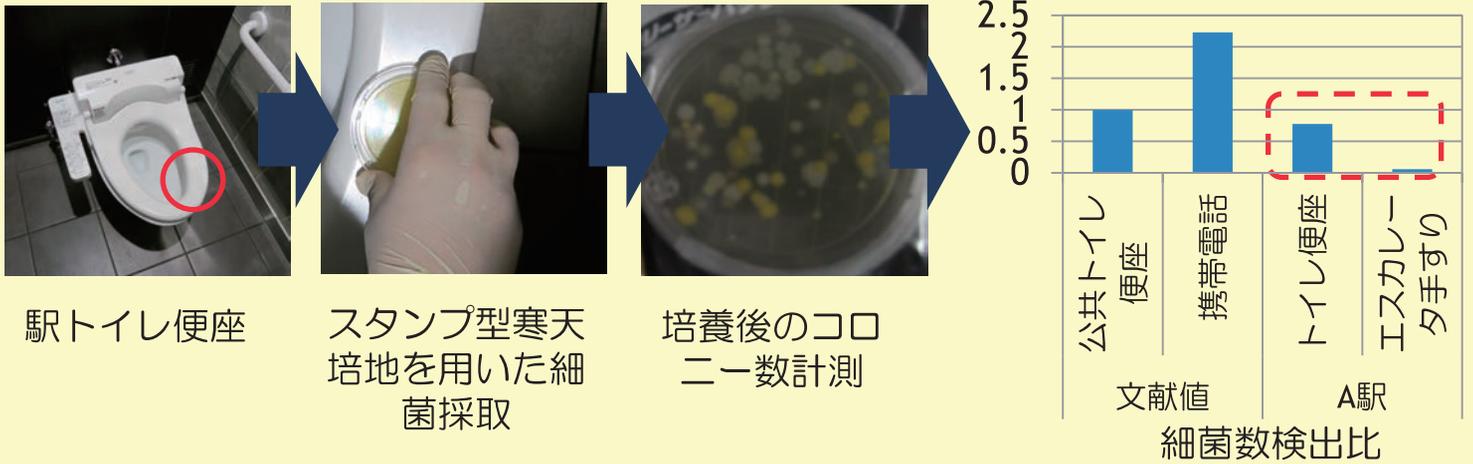
### ■利用者に対する意識調査

質問：なぜ以下の設備を「触りたくない」のですか？

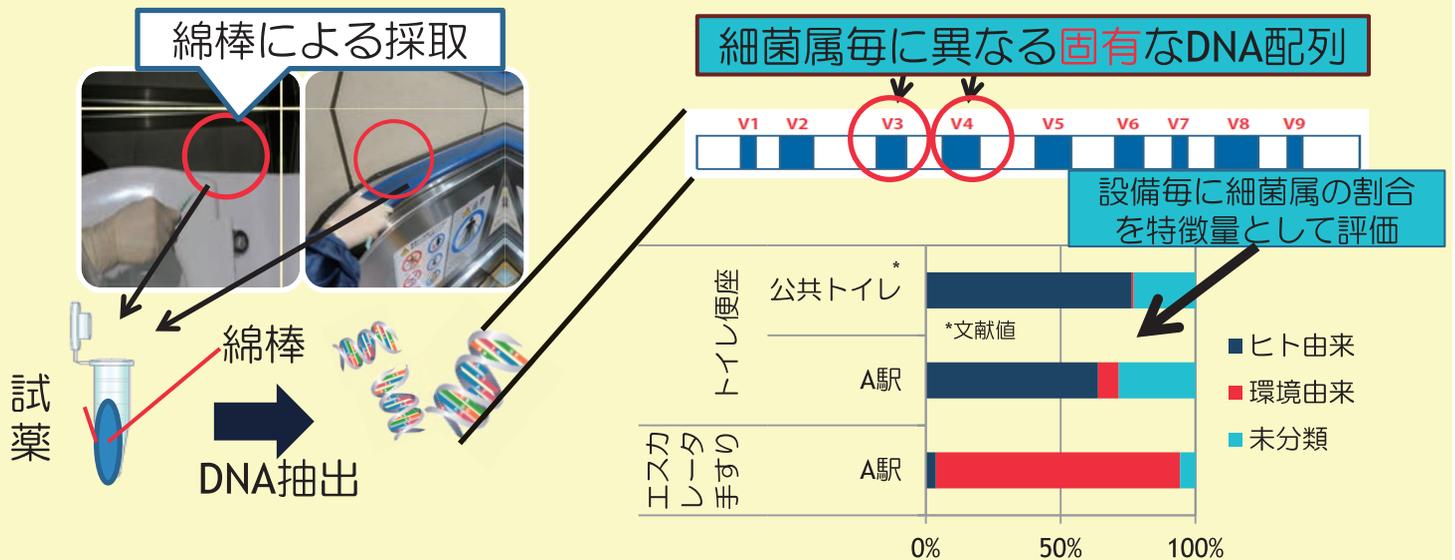
(Web調査による自由回答：N=35~116)



## ■培養法を用いた微生物（細菌）の定量調査



## ■遺伝子解析を用いた微生物を特定する定性調査



## ■求められる旅客設備の条件整理

設備	利用者意識			乖離	細菌の実態	
	「触りたくない」理由	要望	具体案		定量	定性
エスカレーター手すり	汚い菌がいそう	清掃・消毒の視覚化 (事業者側)	作業の機械化	乖離	一般環境と同等	環境
トイレ便座		非接触化 (事業者側) 個人で消毒 (利用者側)	個人で消毒			ヒト

利用者の認識を変える取組み > 設備投資